

2013 年 1 月 16 日

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA)
認定テクニカルアナリスト各位
(第 2 次資格保有者各位)

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟
日本テクニカルアナリスト協会 (NTAA)
特定非営利活動法人 (NPO 法人)

第 15 回 (2013 年度) テクニカルアナリスト国際資格 第 3 次試験のご案内

国際テクニカルアナリスト連盟 (以下、「IFTA」という) は、日本 (NTAA)、アメリカ、ドイツなど加盟 19 か国、オーストリア、クロアチアなど準加盟 7 か国を含めた世界 26 か国、会員数約 7000 名を有する団体です (2013 年 1 月 16 日現在)。

IFTA の資格制度認定委員会 (以下、「IFTA 委員会」という) では、テクニカルアナリスト第 3 次試験を下記のとおり実施いたします。受験を希望される方は、下記の実施要項、受験要項ならびに留意事項を熟読の上、日本テクニカルアナリスト協会 (NTAA) 事務局宛にお申込みください。

申込締切日: 2013 年 2 月 27 日 (水) NTAA 事務局必着 (当日消印有効)

記

1. 実施要項

(1) 試験形式 研究論文 (英語で 3000～5000 ワード) の提出。

(2) 研究論文の基準 研究論文の内容は下記の基準を満たすものであること。

基準 a. オリジナル (独創的) なものであること。

基準 b. 少なくとも 2 つの国際市場 (注) について論じたものであること。

基準 c. 筋の通った論理的な議論を展開するとともに、論文中に含まれる各種の検証 (テスト)、検討 (研究) および分析結果に裏付けされた適切な結論が導かれていること。

基準 d. 論文の内容は実際に応用可能であること。

基準 e. 国際テクニカルアナリストの分野に新たな知識 (body of knowledge) を加えるものであること。

注: 国際市場とは、米、欧、日本を含むアジア等の各国における株式・債券・為替等で国際的に開かれている市場とする。

(3)研究論文提出の順序および期限

①第一段階:論文概要の提出

- ・研究論文の第一段階として IFTA 委員会に対し、研究論文の概要(要約)を提出する。
- ・論文概要は論文が上記基準を満たしているかどうかを、IFTA 委員会が判定できる程度の詳細さが必要である。
- ・論文概要は最終的に英文で 700～1300 ワードにまとめること。
- ・論文概要は、箇条書きにするなどコンパクトにまとめ、IFTA 委員会が読みやすいように工夫すること。
- ・論文概要の言語は英語であるが、日本語で提出してもよい(ただし、日本語の場合は NTAA へ提出する期限が英語提出者とは異なります。また、英訳料については別途実費をご請求させていただきます。)
- ・提出形式は PDF もしくはワードで作成したもの。

論文概要の提出期限:(英語執筆者)2013 年 4 月 26 日(金)NTAA 事務局必着

論文概要の提出期限:(日本語執筆者)2013 年 3 月 27 日(水)NTAA 事務局必着

②論文概要の認定

- ・IFTA 委員会は、提出された論文概要が前記基準 a から基準 e を満たしているかどうかを認定する。
- ・前記基準を満たしていないと思われる論文概要については、論文作成にあたり考慮すべき助言、注意事項、条件等が付されて認定されることがある。

論文概要の認定結果:2013 年 6 月中旬ごろ発表予定

③第二段階:研究論文の提出

- ・IFTA 委員会より論文概要の認定を受けた者は、第二段階として英語で 3000～5000 ワードの研究論文を提出する。
- ・研究論文は前記基準を満たしていることはもとより、認定された論文概要を逸脱してはならない。また、IFTA 委員会から条件等を付されている場合には、これらを全てクリアすること。
- ・研究論文の言語は英語(3000～5000 ワード)であるが、日本語(8000 字程度)で提出してもよい(チャートや図表は字数外)。(ただし、日本語の場合は、NTAA へ提出する期限が英語提出者とは異なります。また、英訳料については別途実費をご請求させていただきます。)
- ・形式は PDF もしくはワードで作成したもの。

研究論文の提出期限:(英語執筆者)2013 年 9 月 27 日(金)NTAA 事務局必着

研究論文の提出期限:(日本語執筆者)2013 年 8 月 29 日(木)NTAA 事務局必着

④研究論文の合否判定

- ・IFTA 委員会は、専門の試験官による審査を経て論文の合否を判定する。
- ・合格者には IFTA より MFTA (Master of Financial Technical Analysis) の称号が付与される。

研究論文の合否判定:2014 年 4 月ごろ発表予定

(4) 不合格論文の取扱い

- ・不合格者は、その論文を修正して翌年再提出することができる。
- ・採点結果に不服な受験者は IFTA 委員会に採点の見直しを求めることができるが、その結果として判定が変わらなかった場合には、当該論文は翌年再提出できない。
- ・研究論文の見直しには相当な時間を要する上、見直し料金が必要となる。

(5) 受験申込から合否判定までのスケジュール一覧

	英語で提出する受験者	日本語で提出する受験者
受験申込〆切	2013 年 2 月 27 日 (水)	同左
論文概要の提出期限	2013 年 4 月 26 日 (金)	2013 年 3 月 27 日 (水)
論文概要の認定結果	2013 年 6 月中旬頃	同左
研究論文の提出期限	2013 年 9 月 27 日 (金)	2013 年 8 月 29 日 (木)
3 次試験の合否判定	2014 年 4 月頃	同左

※1 受験申込書、論文の提出先は全て NTAA 事務局となります。

※2 上記スケジュールに遅れた論文は受付致しかねます。期日は厳守していただきますようお願い申し上げます。

2. 受験要項

(1) 申込手続

第 3 次試験受験希望者は、下記の順序に従って申込んでください。申込み資格者は国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 認定テクニカルアナリスト (CFTe) (第 2 次試験合格者) となります。

① 申込方法は NTAA 事務局宛に以下を郵送してください。

- ・申込用紙 所定欄に記入・捺印したもの。

申込締切日: 2013 年 2 月 27 日 (水) NTAA 事務局必着 (当日消印有効)

受験料 10 万円

※ IFTA が設定する受験料は 900 米ドルですが、為替レートは変動しますので当協会所属の受験者の方には、最初に日本円で 10 万円振込んで頂きます。後日、論文の概要提出時点における TTS レートで換算した金額との差額を受験者の方に払戻しいたします。

④ お振込口座 三菱東京 UFJ 銀行 日本橋支店 普通預金 2017789
 特定非営利活動法人 日本テクニカルアナリスト協会
 トクビ ニホンテクニカルアナリストキョウカイ
 (振込手数料は受験者負担)

⑤申込みにあたっての留意事項

- ・申込書はコピーを取り、各自保管して下さい。
- ・申込締切後の取消はできかねますのであらかじめご了承ください。
- ・いったん納入された受験料は、上記の差額分(10万円と900米ドルとの差額)を除き、原則として返金致しません。

(3)受験資格

国際テクニカルアナリスト連盟 認定テクニカルアナリスト®(第2次資格保有者(CFTe))

(4)論文概要および研究論文の提出方法

- ・論文概要および研究論文は NTAA 事務局宛に電子メールにて提出してください。
提出先メールアドレス: office@ntaa.or.jp

3. 研究論文執筆にあたっての留意事項

受験者は下記事項に留意して論文を作成してください。

(1)全般的な事項に関する留意点

- ①定められたルール(研究論文の基準および実施要項)を厳守すること。
- ②ビジネスレポート(セールス用語やマーケティング用語を多用して論述する)のような形式に陥ることなく、学問的に受入れられる論文の形式を整えること。
- ③マクロ経済・政治およびファンダメンタル用語で過去を分析し、批判するのはテクニカル分析ではない。ファンダメンタルな要素は極力排除すること。
- ④原稿の下部にページを入れること。

(2)論文概要と研究論文の関係に関する留意事項

- ①論文概要は研究論文で取上げる事項とそれについての論旨を簡潔、かつ正確に記述したものでなければならない。
- ②論文概要で記述していない事項を研究論文の中で取上げてはならない。
- ③論文概要で記述した事項は、既知のものとして研究論文で省いてはならない。
- ④論文概要の認定にあたって、IFTA 委員会が、研究論文で強調すべき事項または論議を避けるべき事項等を助言したり注意事項や条件等を付す場合があるが、受験者は必ずそれを厳守すること。

(3)研究論文の内容に関する留意事項

- ①研究論文の基準であるオリジナルなもの(基準 a)とは、従来の分析手法もしくはよく知られた手法を新たな観点から見直すことも含まれるが、その場合には body of knowledge(基準 e)の蓄積度は弱くなる(第3次試験では基準 e が要求される)。
- ②研究論文の結論を導く場合には、その裏付けとなる資料(チャートや図表)を付し、適切な書き込みを入れること(基準 c)。※IFTA 委員会が受験者の論旨を理解するのに役立つため。

- ③チャートや図表には、明瞭かつ適切なタイトル(表題)を付けること。
- ④引用した文献やデータは出典を明らかにし、注記を付けること。
- ⑤研究論文は単なる解説的なものではなく、今後の応用を可能にするような方法論を取ること(基準 d)。

(4)研究論文の構成

- ・第一部(研究の目的) 研究(リサーチ)の目的および研究対象の概要
 - ・第二部(方法) 研究(リサーチ)の方法および実施するテストについて
 - ・第三部(裏付け) 論拠の裏付けとなっている資料およびテストの結果について
 - ・第四部(結論) 裏付け資料から導かれた結論
- 付表 追加データがあればそれについて記し、参考文献および受験者の略歴を記す。

以上

4. お申込み・お問い合わせ先

第3次試験の受験にあたって、ご不明な点は NTAA 事務局までお問い合わせください。

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 4F

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟 日本テクニカルアナリスト協会事務局

電話 03-5847-2231 Email: office@ntaa.or.jp